



製薬協

上野構成員提出資料

# 第1回 ゲノム医療実現推進協議会 資料

2015年2月13日

日本製薬工業協会 研究開発委員会 委員

上野 裕明

# コホート研究・バイオバンクにおける 製薬業界の取り組み



- ◆ 独) 国立国際医療研究センター(製薬協)
  - 加藤 規弘先生からナショナルセンターバイオバンクネットワーク(NCBN)の紹介及び意見交換を実施(2014年8月20日 研究開発委員会専門委員会)
- ◆ 東北大学 東北メディカル・メガバンク(製薬協)
  - 機構訪問及び意見交換を実施(2014年10月2日)
- ◆ 久山町コホート研究(田辺三菱製薬)
  - 久山町のゲノム疫学研究から得られた脳梗塞関連遺伝子について、創薬ターゲットとしてのバリデーションおよび機能解析に関する共同研究(九州大・久山研等)を実施(2006年8月～2009年7月)

# コホート研究・バイオバンクに対する 製薬業界の期待



- ◆ 成果獲得までに十数年と長い時間が必要となるが、その成果として、疾患発症のメカニズムが解明されることが期待される。
- ◆ 既存の創薬パラダイムから見ると、これまでとは異なるコンセプトで創薬標的分子が探索できる可能性がある。
- ◆ 得られる研究成果から予防医療（先制医療）など、新しいビジネスモデルも期待できる。

# コホート研究・バイオバンクにおける 課題



- ◆ ヒト臨床情報統合データベースの構築
  - バイオバンク間の連携
  - 収集した試料・情報および解析データの質の担保と標準化(互換性)
- ◆ 収集した試料・情報および解析データの利活用
  - 実用化を目指すには、産業界(製薬企業、診断薬企業、IT企業等)との連携が必須であり、それを念頭においたインフォームド・コンセントの検討
  - 社会的な合意(国民への理解の醸成)を得るための方策の検討
- ◆ ゲノムコホート、バイオバンクおよびゲノム解析の基盤として、様々な人材が必要
  - 疫学研究者、研究倫理専門家、ゲノム医学リサーチコーディネーター、遺伝カウンセラー、生命情報科学専門家、生物統計専門家、統計遺伝学専門家など

# まとめ

## 健康長寿社会の実現

